

【東京都】株式会社TBM ～世界が注目する革命的新素材「LIMEX（ライメックス）」を開発～

企業概要

URL : <https://tb-m.com/sustainability/>

- 2011年創業のスタートアップ企業。プラスチックや紙の代替となる革命的新素材「LIMEX」を開発。「LIMEX」は世界各地に存在する石灰石を主原料としており、石油由来プラスチックや水、森林資源などの使用量を抑え、資源の保全に貢献できる。
- LIMEXやプラスチックの資源循環にも取り組んでおり、2022年には、回収した使用済みのLIMEXと廃プラスチックを自動選別・再生する、世界初のリサイクルプラント「横須賀工場」を竣工。
- 事業（LIMEXの開発・製造・販売、資源循環の促進）によるSDGs達成を実現するとともに、宮城県に自社プラントを建設し、被災地に雇用を創出。

企業情報

企業名	株式会社 TBM		
代表者	代表取締役 CEO 山崎 敦義		
設立年	2011年	従業員	297人(単体)
資本金	234億2,993万円（資本準備金含む）		
業種	窯業・土石製品製造業		
本社所在地	東京都千代田区有楽町1-2-2		
事業概要	環境配慮型の素材開発及び製品の製造、販売、資源循環を促進する事業等		
電話番号	03-6268-8915		



(株)TBM
山崎 代表取締役 CEO

SDGs達成を通じた取組



【経緯・背景等】

- 環境負荷が高い素材の使用が世界的に見直されている昨今であるが、創業当初から「100年後でも持続可能な循環型イノベーション」を企業ビジョンに掲げている。SDGs採択以降は、事業戦略と社会課題の関係を整理する指標としてSDGsを活用。社内外でSDGsが共通言語となっており、取引先との認識共有を図るうえでも有用なものとなっている。

【具体的な取組、製品・サービス】

- LIMEXの主原料である石灰石は、日本においても自給自足が可能な資源で、プラスチックや紙の代替素材としてLIMEXを製造することで、環境負荷の低減と付加価値の高い持続可能な生産の両立を実現している。LIMEX製品は、袋や食品容器などプラスチックの代替製品のほか、高い耐水性・耐久性を活かした飲食店のメニュー表や、名刺、冊子などの紙の代替製品の導入が進んでいる。
- 事業自体がSDGsに貢献できるものであるが、サステナビリティへの取り組みを加速させるために、専任のサステナビリティ部門を設置している。同部門のサステナビリティ専任者が中心となり、ESG・SDGsに関する社員向け研究会や、自社のバリューチェーンとSDGsの関係性のマッピング（ポジティブインパクトとネガティブインパクトの両側面からの分析）等を行い、新製品開発等に取り組むためのイノベーションのヒントとしてSDGsを活用している。
- SDGs達成を通じた地方創生にも取り組んでいる。2018年8月に、TBM・福井県鯖江市・慶應大学大学院の3者で相互連携協定を締結し、LIMEXを活用した「アップサイクル」モデルの構築を進めている。※アップサイクル…モノの価値を向上させながらリサイクルすること 具体的には、鯖江市内で使用済みのLIMEXを使った印刷物等を回収し、同市の伝統工芸品である越前漆器の技法を用いた食器などに加工し、販売すること等を検討している。

【取り組んだ成果・効果】

- 新規取引増加、売上増加等。LIMEXの導入自体が、SDGs貢献に向けた取組みの1つとして、大手企業をはじめ普及が進んでいる。
- 自社の生産拠点（白石工場・多賀城工場・横須賀工場）で、実質100%再生可能エネルギー由来の電力の使用を開始した。
- 2019年6月に開催されたG20や、2年連続でCOP1に参加するなど、グローバルに貢献できる素材として世界へ発信。海外からも多数引き合いをいただいた。
- その他、SDGs達成に向けた取組みは、リクルーティングや社員のモチベーションアップ等にも寄与している。

【貴社にとってのSDGsと、その展望】

- TBMにとってSDGsは達成しなければならない目標であり、共通言語である。2019年より社会的インパクトマネジメントに注力する中で、LIMEX事業のSDGsへの貢献度、そして社会的価値の見える化を図っている。
- 2030年を目標年として、気候変動対策と資源循環の実現に向けた野心的な目標「TBM Pledge 2030」を掲げている。



LIMEX製品例



LIMEXの量産工場
『多賀城工場』



リサイクルプラント
『横須賀工場』